

校長室だより



=自分でGO!自分がGO!そして共にGO!=

令和7年9月16日
第3号
白井市立白井第一小学校
校長室

夏休みが明け、子どもたちが学校にもどってきて、2週間が経ちました。学校に戻ってきた子どもたちの表情がとてもよく、子どもたちなりにいい夏休みを過ごすことができたのではないかと感じました。

また、夏休み明けも、落ち着いて過ごし、学習をしています。夏休み明け、いいスタートがきれたと思っています。

授業中の教師の役割が変わってきた!



校長室だより第2号では、授業の形態がグループに変わり、児童の学び方が変わってきた話をさせていただきました。今回は、教師の役割も変わってきたことをお話しします。

「一斉指導」これは、長年日本が発展させてきた指導法であり、他国ではこの指導法を真似するところもありました。確かに、一斉指導は多くの児童に同じ内容が伝えられ、一体感や連帯感を持つことができます。しかし、この学習方法では、知識の伝達に偏り、思考力や応用力を養う機会が少なくなりがちです。

そこで、本校は学習形態をグループに変えてきました。そして、それによって教師の役割も変わってきました。今、本校でめざしているのは、教師の役割の中で「聞く」「つなぐ」「もどす」を重視することです。

○**聞く** …子どものつぶやきを**聞く**。

「へえー、そんなこと考えているんだ。」「すごい。よく思いついたね。」

○**つなぐ** …つまずいている子を、解法を見つけた子に**つなげる**。

「○○さん、簡単な方法見つけていたよ。」

違った考えを持っている子同士を**つなげる**。

「△△さんと□□さん、答えは同じだけど、やり方が違うよ。何が違うのかな。」

○**もどす** …つまずいている時は、既習内容・教材・グループ（友達）に**もどす**。

「ヒントが教科書の〇ページにあったよ。」「みんなで考えを整理してみよう。」

グループで話し合ったことを、全体に**もどす**。

「このグループでは、こんなことを考えているよ。」

教師が説明したら、子どもができるようになるというのは、間違います。子ども達が、課題を解くためにどれだけ「**脳に汗をかいたか**」ということが大切です。仲間と一緒にになって、頭がぶつかるほどの距離で話し合う。そして身に付けた学習内容こそが本物だと思います。

一小のきらり

8月20日（水）に白井文化会館の大ホールで、白井市内の小中学校が参加したスクールサミットが行われました。本校からは、6年生の3つのグループが代表として参加しました。テーマは「私たちのウェルビーイング」です。

当日は、大きなホールで、市長さんや教育長さん、そして午後の部の発表者や先生方、そして保護者のみなさんがいる前で発表しました。

自分たちでテーマにそった課題を決めて取り組み、それがどうだったか振り返り、相手もよくなり、自分もうれしかったというところまでしっかりまとめて発表してくれました。6年生の成長した姿を見てることができて、とてもうれしかったです。



9月は、4月から学んできたことを振り返り、まとめる時期になります。学びをしっかり振り返り、その上で、また後期に向けて、新たな目標をもってほしいと思います。

困ったとき、つらいときには、SOSを！

最近、『SOSの出し方』と『受け止め方』が、重要視されています。

9月1日（月）の全校朝会では「学校が始まって、学校のことやお家のこと、友達のことなどで、もやもやしていたり、困ったり、悩んでいることがあったら、周りの友達や先生に話をしてくださいね」と子どもたちに話しました。うまく伝えられなくてもいいし、どんな形でもいいですから、SOSを出してほしいと思います。

また、周りの大人も、それに気づいてキャッチしなければいけないと思っています。そのためには、普段をよく見て、変化に気づくことだと思います。

私たち教職員も、日頃から子どもたちをよく見て、少しの変化も共有していきたいと思います。